資料１

# 本村の公共交通の現状について

１．白馬村の概要

２．公共交通の現状

# 1．白馬村の概要

【地勢】

全体的に冷涼な気候であり、全域が特別豪雪地帯に指定されています。村の中央を一級河川姫川が南北に縦断しており、生活エリアである姫川沿いの盆地を中心に、西側には５つのスキー場等の観光施設や宿泊施設等が点在、東側には主に中山間地の集落が点在しています。

【施設立地】

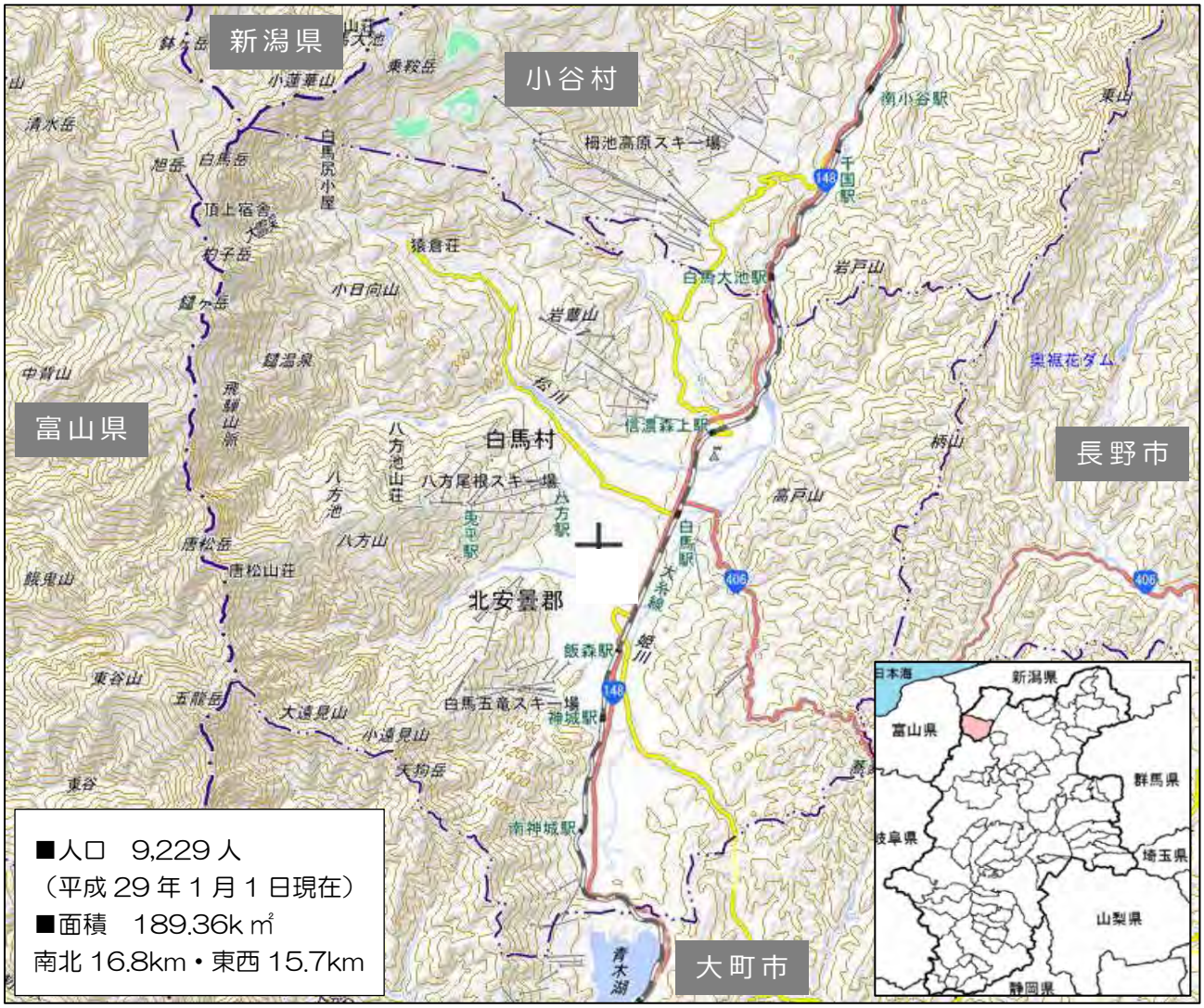
居住エリアとしては村内に 30 地区があり、生活関連施設は以下のエリアに多く立地しています。また、観光施設や宿泊施設は５つのスキー場の周辺に集中しています。

○白馬駅周辺：役場、小中高校、図書館、医療福祉施設、商業施設

○神城駅周辺：小学校、医療福祉施設、道の駅

（数年後に道の駅や図書館の移転を検討しています。）

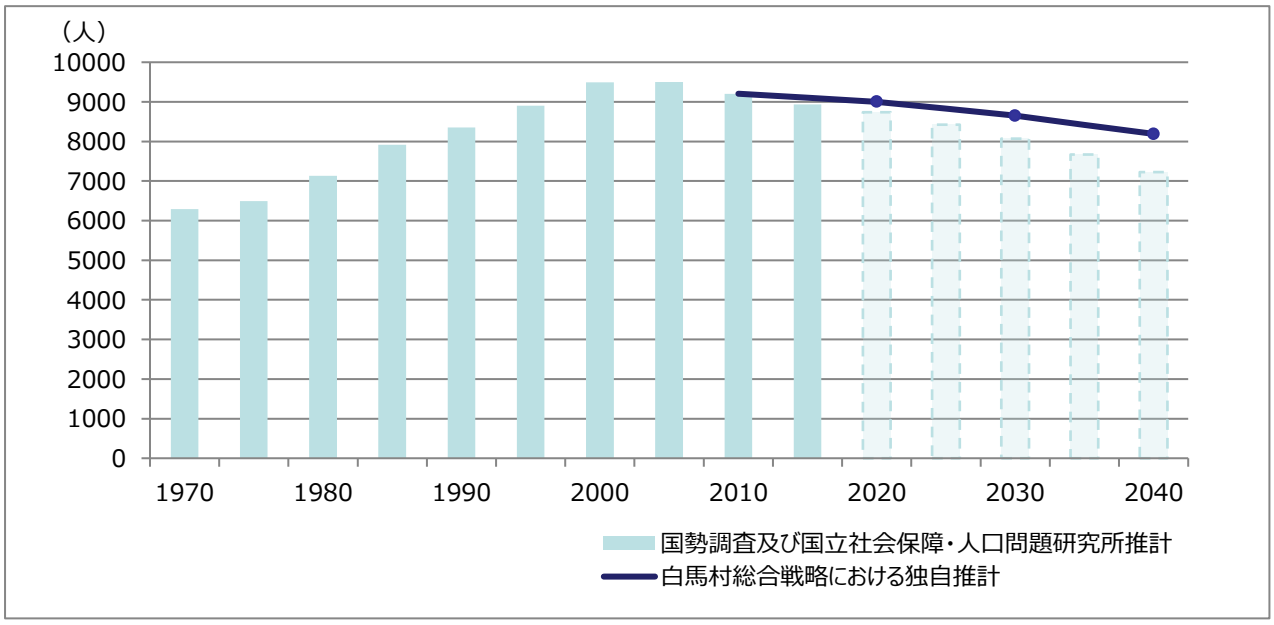
■地域概要



【人口動向等】

人口は減少傾向であり、2040 年には人口は約 7,200 人、高齢化率は 43.8%と予測されています。一方、インバウンド効果で外国人観光客は増加傾向にあります。昭和 31 年以降、市町村合併はしておらず、昼夜間人口比率 99.8%（H27 国勢調査）であり通勤・通学はほぼ村内完結傾向です。

■人口推移



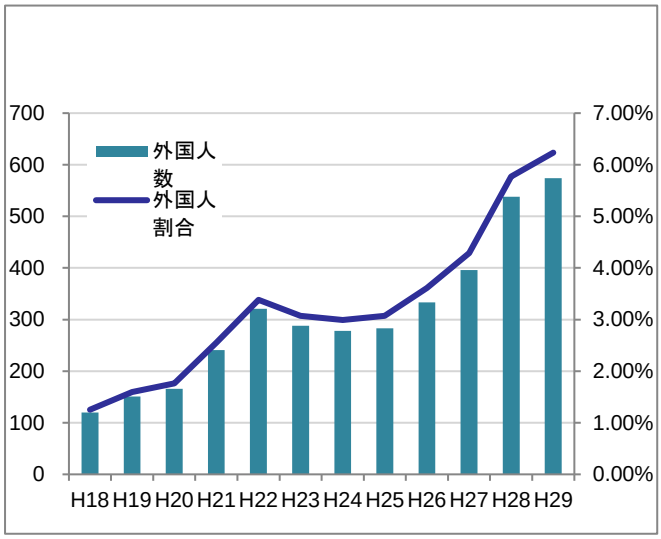

■高齢化率（65 歳以上人口比率）

単位：%

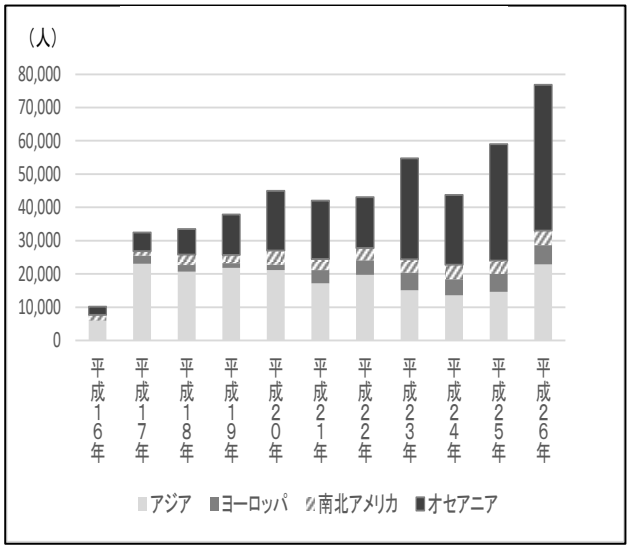
| | S50 | S60 | H2 | H7 | H12 | H17 | H22 | H27 | H32 | H37 | H42 | H47 | H52 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総数 | 12.0 | 12.9 | 14.8 | 16.7 | 18.6 | 21.4 | 23.5 | 29.0 | 32.9 | 35.5 | 38.0 | 40.4 | 43.8 |
| 男 | 11.2 | 10.3 | 11.9 | 13.8 | 15.8 | 18.7 | 21.2 | 27.0 | 31.1 | 33.5 | 35.3 | 36.9 | 39.2 |
| 女 | 12.9 | 15.4 | 17.6 | 19.5 | 21.3 | 24.0 | 25.8 | 31.0 | 34.5 | 37.3 | 40.3 | 43.5 | 47.7 |

出典：国勢調査（S50～H22）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（H27～）より集計

■外国人住民の数と割合の推移




■白馬村の外国人述べ宿泊者数の推移




資料：白馬村観光地経営計画

## ２．公共交通の現状

【公共交通の現状】

本村の公共交通は以下に示すとおりであり、ＪＲ大糸線を軸として、路線バス等の各種バス、地域内移動を支援するデマンド型タクシーが運行しています。

■白馬村の公共交通一覧

| | 交通機関 | 運行概要　等 | 事業者 |
|---|---|---|---|
| ① | 鉄道 | ＪＲ大糸線<br>南神城駅、神城駅、飯森駅、白馬駅、信濃森上駅　※下線は特急停車 | 東日本旅客鉄道 |
| ② | 路線バス | 八方線（白馬駅～八方） | アルピコ交通(株) |
| | | 猿倉線（白馬駅～猿倉）　※冬期運休 | 〃 |
| | | 栂池線（白馬駅～栂池高原～白馬乗鞍）<br>※村内は白馬駅～落倉まで | 〃 |
| ③ | その他のバス | アルペンライナー（扇沢～白馬乗鞍） | 〃 |
| | | 高速バス（白馬～新宿線） | 〃　（京王バス） |
| | | 特急バス（長野～白馬） | 〃 |
| | | ナイトシャトルバス<br>冬期間運行（12 月末～3 月初） | 白馬村観光局 |
| ④ | 施設送迎バス | 観光事業者運行サービス | Hakuba Valley バス<br>索道事業者運行バス<br>花三昧バス |
| ⑤ | タクシー | | アルプス第一交通、アルピコタクシー、白馬観光タクシー |
| ⑥ | デマンド型乗合タクシー | 北方面行き<br>南方面行き | 白馬村 |
| ⑦ | 遠距離保育園児送迎 | ※　現在廃止 | 白馬村 |

【公共交通における課題】

課題①：移動制約者以外も利用可能な住民向け交通の検討

・50 歳未満で半数以上が「日常交通において不便を感じる」と回答しています。

・目的（通院、買い物、観光、送迎）に応じたきめ細やかな運行が求められています。

「白馬村の移動・交通に関するアンケート調査」（H29 年度実施）

課題②：観光客の利便性向上の検討

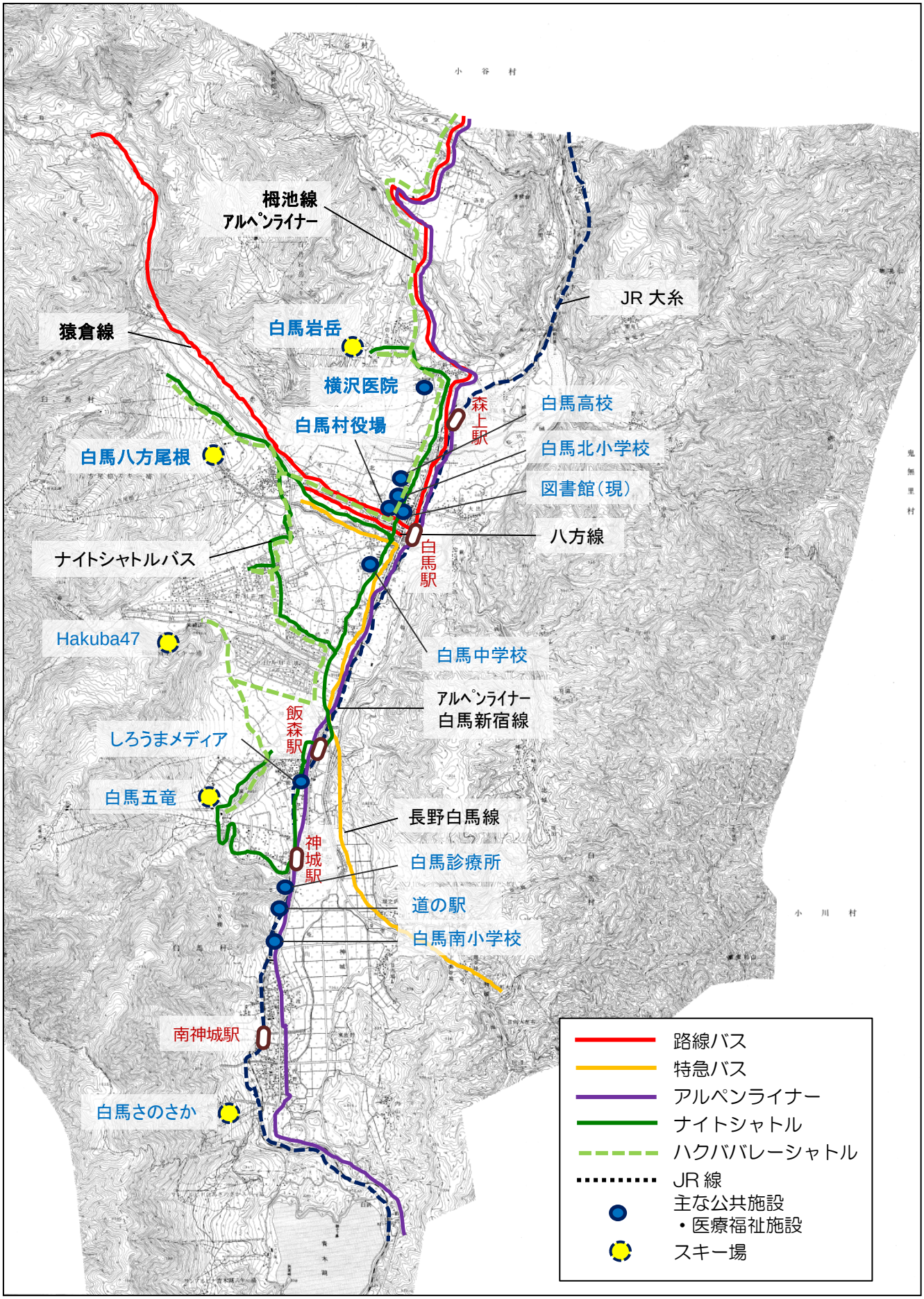
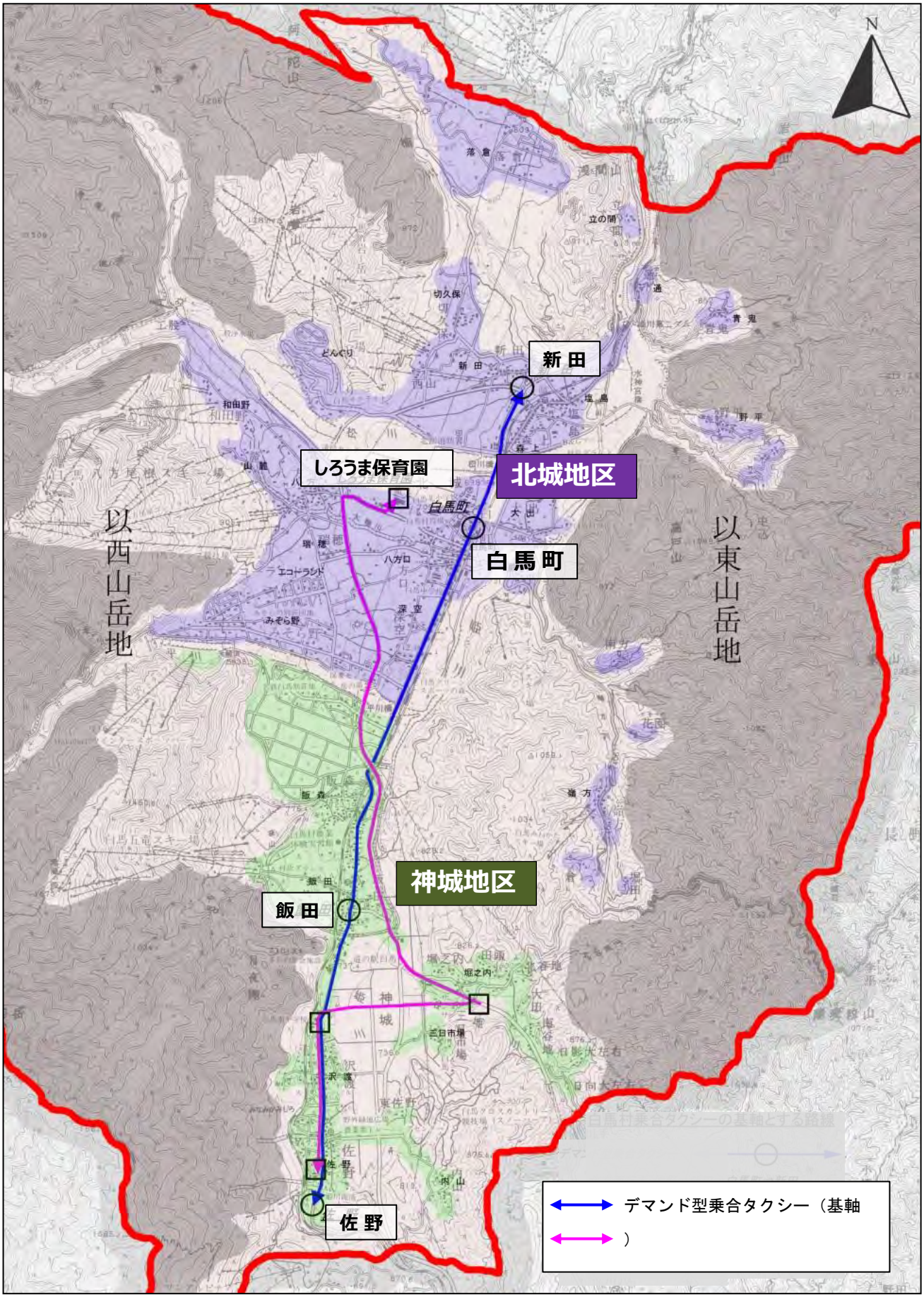
・スキー場間の送迎バスの他、宿泊エリアと飲食エリアを結ぶにナイトシャトルバスが運行されていますが、地域内二次交通のさらなる充実が求められています。

課題③：通学用交通手段の検討

・小中学生のスクールバスがなく、遠距離通学者の自動車送迎等の家族負担が大きい状況です。

・冬季を中心にスクールバスもしくは児童生徒が利用できる公共交通の運行を求める声があります。

■ ＪＲ及びバス路線の運行経路



■デマンド型乗合タクシーの運行経路